

2022年3月3日

認定審査結果報告書

一般社団法人日本技術者教育認定機構

(1) 審査プログラム

教育機関名： 宮崎大学 工学部

認定プログラム名： 電気システム工学科

認定分野： 電気・電子及び関連の工学分野

(2) 審査結果

認定審査結果： 認定を可とする。

審査結果の内容： 別添の「審査結果」に記載。

認定期間： 2021年4月1日～2027年3月31日の6年間

(3) 次回審査の内容・手続き

次回審査年度： 2027年度

審査の種類： 認定継続審査

自己点検書の審査と実地審査による「通常審査」を実施

審査項目： 認定基準に基づく全ての点検項目

JABEEは国際的な動きも含めた技術者教育の進展や、教育プログラム側からのご意見を参考に、審査の質向上に継続して取り組んでおります。また、教育プログラムには、「技術者教育認定に関わる基本的枠組 第3章 認定の基本的立場 3.1(2)」に掲げる“優れた教育方法の導入を促進し、技術者教育を継続的に発展させる”を旨に、教育点検および改善に継続して取り組まれますようお願いしております。次回の認定継続審査においては、今回の審査で「S」と判定された項目を含め全ての基準項目につきまして、これらの観点をふまえて審査を行いますので、ご理解のほどお願いいたします。

次回審査については、審査を受ける年度に有効な認定基準、認定基準の解説、認定・審査の手順と方法、自己点検書作成の手引き等に従ってお取り進めください。

(4) 認定プログラム修了生の管理について

別添の「JABEE 認定プログラム修了生の名簿管理と修了証明書類の発行について」に従って、厳正な管理をお願いします。

(5) 依頼事項

- ・認定期間中に、学部・学科・プログラム名の変更が発生した時は、毎年 JABEE からご提出を依頼する「年次報告」により JABEE 事務局にお届けください。詳しくは下記をご参照願います。

<https://jabee.org/accreditation/basis/documents>

- ・別添の「審査結果」は、JABEE の各審査過程を経た最終報告ですので、貴方で必要があれば内容の公表は可能ですが、先に実地審査後にお渡ししたプログラム点検書（実地審査後）記載の判定内容については審査の中間段階のものであり、今後も公表しないようにお願いします。
- ・審査を担当した審査団の個人名、および JABEE から提供した審査団構成員の個人情報については、今後も秘密厳守願います。
- ・JABEE 認定審査に関わるご連絡を E メールにてお送りすることがございますので、JABEE 対応責任者およびプログラム責任者の変更が生じた際は、速やかに JABEE 事務局（E-mail accreditation@jabee.org）までご連絡ください。

以上

審査結果

- ・ 高等教育機関名：宮崎大学 工学部
- ・ 認定プログラム名：電気システム工学科
- ・ 認定分野：電気・電子及び関連の工学分野

一般社団法人日本技術者教育認定機構

2022年3月3日

番号	点検項目	SWD 判定	根拠 (基準への適合が確認できた事項)	指摘事項
1	基準1 学習・教育到達目標の設定と公開	S		
1.1	【自立した技術者像の設定と公開・周知】 プログラムは、育成しようとする自立した技術者像を公開し、プログラムに関わる教員及び学生に周知していること。この技術者像は、技術者に対する社会の要求や学生の要望に配慮の上、プログラムの伝統、資源、及び修了生の活躍が想定される分野等を考慮して定められていること。	S	<ul style="list-style-type: none"> ・技術者像の公開がなされていることを、添付資料編の【T-1-1】『キャンパスガイド(p.171)の学科の「技術者像について」』や【W-1-1】『学科のホームページ：技術者像の開示』等で確認し、教員や学生にも周知されていることを教員面談と学生面談で確認した。さらに、プログラムが定める技術者像は、社会の要求や学生の要望(主な就職先)に配慮していることが、【T-1-2】『2020年度修了生就職先一覧』等で確認した。 ・また、同窓会を通してプログラム修了生との意見交換を行うことでプログラムの伝統や修了生の活躍する分野等を考慮していることを【T-1-3】『同窓会の開催案内』や【W-1-3】『2019年度同窓会開催案内』等で確認した。 	[固有部分] (なし)
1.2	【学習・教育到達目標の設定と公開・周知】 プログラムは、プログラム修了生全員がプログラム修了時に確実に身につけておくべき知識・能力として学習・教育到達目標を定め、公開し、かつ、プログラムに関わる教員及び学生に周知していること。この学習・教育到達目標は、自立した技術者像(認定基準1.1)への標(しるべ)となっており、下記の知識・能力観点(a)～(i)を水準を含めて具体化したものを含み、かつ、これら知識・能力観点に関して個別基準に定める事項が考慮されていること。	S	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムが定める学習・教育到達目標は、「学科の教育目標」として定められ学内外に公開していることを【T-1-6】『プログラム独自の学習・教育到達目標』、【W-1-6】『学科ホームページ：プログラム独自の学習・教育到達目標』、【AD1.2-1】『学習・教育到達目標の掲示例』等で確認した。 ・また学生には学年担当教員がオリエンテーションにおいて資料を使った説明で周知していることを【T-1-5】『JABEE オリエンテーション資料の一部』や【AD1.1-1】『入学時オリエンテーションの資料』等で確認した。 ・プログラムの学習・教育到達目標は、知識・能力観点(a)～(i)の内容を含めて定められており、自立した技術者像への標となっていること、さらに、学習・教育到達目標が公開されていることを、【W-1-6】『学科のホームページ：プログラム独自の学習・教育到達目標』等で確認した。 	<p>[固有部分]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科のホームページ等で、学習・教育到達目標が公開されていることは確認できたが、知識・能力観点(a)～(i)の一部で水準が具体的に記述されていないとの懸念が残った。しかし、学生面談では、ガイダンス等で担任からの説明で、学生が水準に関して認識していることが確認できた。 ・さらに、プログラム責任者との意見交換時に、水準を含めた学習・教育到達目標の追加資料を作成し学科のホームページにて公開し、さらに学生に対して周知することを、学科会議にて審議することの説明があった。 ・学科会議にて審議した学習・教育到達目標の追加資料の公開、かつ教員及び学生に対して周知することへの懸念が残る。 <p>【改善報告書の提出による改善の確認】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年11月4日(木)に提出された改善報告書により、学習・教育到達目標に関して知識・能力観点(a)～(i)の全てで水準も含めた追加説明が教員と学生に周知されており、11月8日に学科のホームページにて追加説明が公開されていることが確認できたので、基準に適合している。

番号	点検項目	SWD 判定	根拠 (基準への適合が確認できた事項)	指摘事項
2	基準2 教育手段	S		
2.1	<p>【カリキュラム・ポリシーに基づく教育課程、科目の設計と開示】</p> <p>プログラムは、公開されている教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)に基づく教育課程(カリキュラム)において、各学習・教育到達目標に関する達成度評価の方法及び基準、ならびに、科目ごとの学習・教育到達目標との対応、学習・教育内容、到達目標、評価方法、及び評価基準、を定め、授業計画書(シラバス)等によりプログラムに関わる教員及び学生に開示していること。なお、教育内容に関する必須事項を、必要に応じて個別基準で定める。</p>	S	<ul style="list-style-type: none"> ・工学部のホームページに、カリキュラム・ポリシーが公開されていることを確認した。 ・各学習・教育到達目標に関する達成度評価の方法及び基準、ならびに、科目ごとの学習・教育到達目標との対応、学習・教育内容、到達目標、評価方法、及び評価基準などは【W-1-10】『シラバス検索システム』や【T-1-10】『シラバスの例』等で定められていることを確認した。 ・シラバスは、【T-1-9】『カリキュラム及び科目の流れ図』や【T-2-1】『時間割の例』、【W-2-1】『工学部ホームページ：時間割の例』とともに、学内外に開示されていることを確認した。 	[固有部分] (なし)
2.2	<p>【シラバスに基づく教育の実施と主体的な学習の促進】</p> <p>プログラムは、シラバス等に基づいて教育を実施し、カリキュラムを運営していること。カリキュラムの運営にあたり、プログラムは、履修生に対して学習・教育到達目標に対する自身の達成度を継続的に点検・反映することを含む、主体的な学習を促す取り組みを実施していること。</p>	S	<ul style="list-style-type: none"> ・本プログラムは、開示されたシラバスに基づいて教育を実施し、カリキュラムを運営していることを、【T-2-2】『学科FD 報告会議事録例』や【T-2-3】『FD報告書の例』、等により確認した。 ・履修生自身の継続的な達成度の点検については、【T-2-4】『担任からの面談アナウンス例』や【T-2-5】『授業アンケートの例』、【T-2-6】『学習カルテ・履修システム』、【AD2.2-1】『学習・教育到達目標の達成度を確認できる学習カルテの画面コピー』により行われていることを確認した。 ・【T-2-7】『電気システム工学プロジェクト実験Ⅱ評価項目』、【T-2-8】『卒業研究評価項目』、履修生の主体的な学習を促す取り組みがされていることを確認した。 ・担任が面談を行って指導することで、達成度を継続的に点検・反映することを含む主体的な学習を促す取り組みが、履修生全員に対して行われていることを、教員面談と学生面談で確認した。 	[固有部分] (なし)
2.3	<p>【教員団、教育支援体制の整備と教育の実施】</p> <p>プログラムは、上記2.1項、2.2項で定めたカリキュラムに基づく教育を適切に実施するための教員団及び教育支援体制を整備していること。この教育支援体制には、科目間の連携を図ってカリキュラムに基づく教育を円滑に実施する仕組み、及び、教員の教育に関する活動を評価した上で質的向上を図る仕組みを含むこと。加えて、プログラムは関係する教員にその体制を開示していること。なお、教員団及び教育支援体制に関する勘案事項を必要に応じて個別基準で定める。</p>	S	<ul style="list-style-type: none"> ・教育を実施するための教員団と教員支援体制が整備されていることを、【T-2-9】『教員・研究室一覧』、【T-2-10】『工学部教育研究支援技術センター』、【T-2-11】『2020年度TA 配分表』等により確認した。 ・教育支援体制には、【T-2-12-1】『工学部草の根FD活動』や【T-2-12-2】『教員間連絡ネットワーク会議議事録例』等の科目間の連携を図って教育を円滑に実施する仕組みがあることを確認した。 ・プログラム構成者による新任教員や昇任教員に対する授業参加が行われ、【T-2-12-3】『授業参観実施報告』を開示するなどして、教員相互の質的向上の取り組みがされていることを確認した。 ・【AD2.3-1】『教育活動の評価』において、教育活動において顕著な業績をあげた教員を表彰することにより、その教授法や教育実践を本学の教員が共有し、教育の改善や質の向上を図ることを目的として大学独自の表彰制度があることを確認した。 	[固有部分] (なし)

番号	点検項目	SWD 判定	根拠 (基準への適合が確認できた事項)	指摘事項
2.4	<p>【アドミッション・ポリシーとそれに基づく学生の受け入れ】 プログラムは、カリキュラムに基づく教育に必要な資質を持った学生をプログラムに受け入れるために定めた受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を公開し、かつ、同方針に基づいて学生を受け入れていること。</p>	S	<p>[共通部分] ・ホームページ、入学者選抜要項により、入学のためのアドミッション・ポリシーが、大学、学部、学科ごとに定められ、学内外に開示され、これに従って入学者選抜が行われていることを確認した。 ・学外からの編入学生の受け入れについても、工学部によって定められており、ホームページ、編入学生募集要項により学内外へ開示されており、それに従って編入学生選抜が行われていることを確認した。 ・他のプログラムとの異動については、転学部、転学科の取り扱いに関する申し合わせに、定められており、教職員、学生に開示されていることを確認した。 ・転学部や転学科について実績があることをJABEE対応責任者代行教員面談で確認し、方針通り判定が行われていることを教授会資料で確認した。ただし、すべて他プログラムとの異動に該当するものではなかった。</p> <p>[固有部分] ・プログラムの選抜方針(アドミッション・ポリシー)を設定している。アドミッション・ポリシーに沿う形で具体的に選抜方法が設定され、これに基づいて選抜試験が実施されている。広い資質の学生を受け入れるために、複数の選抜方法が実施されていることを確認した。 ・受験生に渡される選抜方式ごとの学生募集要項：一般入試学生募集要項、推薦入試学生募集要項(2020年度入学生まで実施、2021年度入学生より総合型選抜実施)、社会人、私費外国人留学生入試学生募集要項及びホームページ上で公開されていることを確認した。 ・本学科への入学者の選抜は、一般入試(前期、後期)、推薦入試(2020年度入学生まで実施、2021年度入学生より総合型選抜として実施)、社会人、私費外国人留学生入試の以上4種類の入試に関して、公開されているアドミッション・ポリシーに沿って実施していることを確認した。</p>	<p>[共通部分] (なし)</p> <p>[固有部分] (なし)</p>

番号	点検項目	SWD 判定	根拠 (基準への適合が確認できた事項)	指摘事項
2.5	<p>【教育環境及び学習支援環境の運用と開示】</p> <p>プログラム又はプログラムが所属する高等教育機関は、教育の実施及び履修生の学習支援のために必要な施設、設備、体制を保有し、それを維持・運用・更新するために必要な取り組みを行っていること。その取り組みをプログラムに関わる教員、教育支援体制の構成員、及び履修生に開示していること。</p>	S	<p>[共通部分]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室、実験室、演習室、図書館、情報基盤センター、自習室、食堂等の設備が設けられていることをホームページ及びキャンパスガイドで確認した。またWeb実地審査のJABEE対応責任者代行教員面談で、整備状況を写真や資料で確認し、利用状況について確認した。さらに新しい施設としてカフェ、キッチンカー、地域デザイン棟なども新設されていることをJABEE対応責任者代行教員面談の際に資料で確認した。 ・これらの設備を維持・運用・更新するために必要な財源確保への取り組みがなされていることについて、JABEE対応責任者代行教員面談の際、概算要求資料、戦略重点経費資料を閲覧し、確認した。これらの資料がホームページで教職員、学生、学外に対して公開されていることを確認した。 ・教育環境及び学習支援に関して、学生の理解を助け、学生の勉学意欲を増進し、学生の要望にも配慮する仕組みとして、大学として「学生なんでも相談」、「意見箱」があり、教職員・学生に開示され、取り組みが行われていることをホームページで確認した。また、工学部として「工学部学生学習情報室」が設置され、教職員・学生に開示されていることをホームページで確認した。JABEE対応責任者代行教員面談でこれらの活動が行われていることを確認した。 <p>[固有部分]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室、実験室、演習室、図書室、情報基盤センター、自習室、休憩場所、食堂等いずれも学生定員に準じて整備されている。また、工学部として、施設、設備管理に関する予算を毎年確保していることを確認した。 ・【AD2.5-1】『設備の更新例』により、エアコンや液晶プロジェクトなどの設備が更新されていることを確認した。 	<p>[共通部分] (なし)</p> <p>[固有部分] (なし)</p>

番号	点検項目	SWD 判定	根拠 (基準への適合が確認できた事項)	指摘事項
3	基準3 学習・教育到達目標の達成	S		
3.1	<p>【学習・教育到達目標の達成】</p> <p>プログラムは、各科目の到達目標に対する達成度をシラバス等に記載の評価方法と評価基準で評価し、かつ、全修了生が修了時点ですべての学習・教育到達目標を達成したことを点検・確認していること。この達成度評価には、他のプログラム(他の学科や他の高等教育機関)で履修生が修得した単位についての認定も含む。</p>	S	<p>[共通部分]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の高等教育機関で取得した単位の評価方法が定められていることを大学学務規則により確認した。ただし、JABEE対応責任者代行教員面談でこれまで実例が無いことを確認した。 ・編入生の編入前の単位の評価方法が定められていることを大学学務規則により確認した。Web実地審査の際、教務委員会議事録を閲覧し、定められた方法によって単位が認定されていることを確認した。 <p>[固有部分]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学習・教育到達目標に対する達成度は主要科目の単位を取得することによって評価し、同到達目標及び評価方法、また、評価基準はシラバスに示されていることを【T-1-10】『シラバスの例』で確認した。 ・各学習・教育到達目標に対する各科目の達成度を点検・確認する仕組みがあることを【T-2-2】『学科FD 報告会議事録例』、【T-2-8】『卒業研究評価項目』等で確認した。 ・【AD3.1-1】『再試験評価が分かるFD 報告書の例(電子回路)』、【AD3.1-2】『電気システム工学基礎演習のFD 報告書』、【AD3.1-3】『卒業研究の評価基準』、【AD3.1-4】『電気システム工学プロジェクト実験Ⅱと課題演習Ⅱの評価項目』等により、再試験が適切に行われており、達成度評価も適切に行われていることを確認した。 ・【AD2.2-1】『学習・教育到達目標の達成度を確認できる学習カルテの画面コピー』と教員面談・学生面談により、修了生全員が全ての学習・教育到達目標を達成していることを確認した。 	<p>[共通部分] (なし)</p> <p>[固有部分] (なし)</p>

番号	点検項目	SWD 判定	根拠 (基準への適合が確認できた事項)	指摘事項
3.2	【知識・能力観点から見た修了生の到達度点検】 プログラムは、学習・教育到達目標を達成した全修了生が学習・教育到達目標に含めた知識・能力観点(a)～(i)の内容を獲得していることを、点検・確認していること。	S	<ul style="list-style-type: none"> 各学習・教育到達目標に対する達成度は主要科目の単位を取得することによって評価しており、【W-2-2】『学科FD報告会議事録』、【T-2-2】『学科FD報告会議事録例』、【T-3-3】『キャンパスガイド (p174、卒業に必要な要件)』等により、達成度の点検が行われていることを確認した。 教員面談と学生面談により、担任が学生に対して学習カルテ(【AD2.2-1】『学習・教育到達目標の達成度を確認できる学習カルテの画面コピー』)を見ながら、知識・能力観点(a)～(i)の内容を獲得していることを点検・確認している活動がなされていることを確認した。 	<p>【固有部分】</p> <ul style="list-style-type: none"> 知識・能力観点(b)技術者倫理に関しては学習・教育到達目標(E)に対応しており、大部分は「技術者倫理と経営工学」という科目を習得することで達成できる。しかし、学習・教育到達目標(E)に対応した科目の一つに「電気システム工学基礎演習」があり、この科目の対応は表4で◎とされている。ところが、「電気システム工学基礎演習」のシラバスの成績評価方法を見る限り、知識・能力観点(b)に係る「技術者倫理」の評価比率は20%しかなく、「電気システム工学基礎演習」で技術者倫理に関する評価が0点であっても学習・教員到達目標(E)が達成されてしまうという懸念がある。 <p>【改善報告書の提出による改善の確認】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2021年11月4日(木)に提出された改善報告書により、「電気システム工学基礎演習」が“副”科目として○に修正されており、修正したことを学生にも周知していることが確認できたので、基準に適合している。
4	基準 4 教育改善	S		
4.1	【内部質保証システムの構成・実施と開示】 プログラム又はプログラムが所属する高等教育機関は、基準1～3に則してプログラムの教育活動を点検する内部質保証を組織的に実施し、かつ、その実施内容をプログラムに関わる教員に開示していること。この内部質保証の仕組みには、社会の要求や学生の要望に配慮し、かつ、仕組み自体の機能を点検できる機能を含むこと。	S	<ul style="list-style-type: none"> プログラムの教育活動を点検する内部質保証を組織的に実施していることを、【T-4-1】『電気システム工学科教育改善ループ』、【T-4-2】『教育目標達成度チェックシステム』、【T-4-3】『学科FD委員会議事録例』、【T-4-4】『2021年度第1回教育改善委員会議事録例』、【T-4-5】『学科会議議事録例』等により確認した。 実施内容をプログラムに係る教員に開示していることを【T-4-1】『電気システム工学科教育改善ループ』、【T-4-5】『学科会議議事録例』等で確認した。 内部質保証には、社会の要求や学生の要望を配慮する仕組みがあることを、【T-4-6】『学生と教員の懇談会議事録例』、【T-4-7】『2020年度卒業生アンケート結果』等で確認した。 内部質保証には、プログラム外の委員を入れるなどして、仕組み自体の機能を点検できるようになっていることを【T-2-2】『学科FD 報告会議事録例』で確認した。 【W-4-3】『学科FD委員会議事録』や【W-4-4】学科教育改善委員会議事録等が、学科管理のWebサーバーにて教員が閲覧可能となっており、教育改善実施内容が教員に開示されていることを確認した。 	<p>【固有部分】</p> <p>(なし)</p>

番号	点検項目	SWD 判定	根拠 (基準への適合が確認できた事項)	指摘事項
4.2	【継続的改善】 プログラムは、教育点検の結果に基づいて教育活動を継続的に改善する仕組みを持ち、それに関する活動を行っていること。	S	・プログラムが教育点検の結果に基づいて教育活動を継続的に改善する仕組みを持ち、実際に活動していることを、【T-4-1】『電気システム工学科教育改善ループ』、【T-4-2】『教育目標達成度チェックシステム』、【T-4-3】『学科FD 委員会議事録例』、【T-4-4】『2021年度第1回教育改善委員会議事録例』、【T-4-5】『学科会議議事録例』、【T-4-6】『学生と教員の懇談会議事録例』、【T-4-7】『2020年度卒業生アンケート結果』等により確認した。	[共通部分] (なし) [固有部分] (なし)

付記事項

なし

JABEE 認定プログラム修了生の名簿管理と修了証明書類の発行について

2022年3月改定

一般社団法人日本技術者教育認定機構

名簿管理

JABEEによる教育プログラムの認定は、国際的な協定に基づきJABEEが定めた認定基準により審査を行い、履修生に世界に通用する技術者として活動するために必要な知識や能力を修得させているプログラムであることを認定して、教育の質保証を行うものです。このため、JABEE認定プログラムの修了生には下記の優遇措置が取られており、修了生とそれ以外の人を明確に区別することが求められています。

したがって、JABEE認定プログラムを運営する高等教育機関におかれましては、履修生に対するプログラム修了要件の厳正な適用と「JABEE認定プログラム修了生名簿」の厳正な管理をお願いします。

JABEE認定プログラムを修了した者は、技術士法第31条の2第2項および第32条第2項により、技術士を受験する際の第一次試験が免除されます。また、希望者は技術士補として登録することができます。技術士補登録と技術士第二次試験の際には、文部科学省のウェブサイトで公表されている教育課程の一覧表に、修了したプログラムの名称が掲載されていることと、高等教育機関が発行する「JABEE認定プログラム修了証明書」の提出が求められます。このためにも、在学中のJABEE認定プログラムへの履修登録が明確になっていることが必要となります。

修了証明書類の発行

修了生が就職や技術士補登録あるいは技術士第二次試験の受験を申し込む際など、「JABEE認定プログラム修了証明書」等が必要な場合には、「JABEE認定プログラム修了生名簿」に従って証明書類を発行して下さい。

JABEE認定プログラム修了生に対して高等教育機関が発行する証明書類には、JABEEウェブサイトで公表している教育機関名および認定プログラム名が明記されていることが重要です。完全に一致していることが求められ、略称は認められません。これらの名称はJABEEが認めた正式名称であり、文部科学省が公表している教育課程の一覧表にも掲載されていますので、十分ご確認をお願いします。

JABEE認定プログラム修了生とするための条件

「JABEE認定プログラム修了生」とは、認定プログラムの定める規則に従って認定プログラムへの履修登録が行われ、認定有効期間内にそのプログラムを修了した者です。ここで、認定プログラムの履修登録ができる学生とは、認定有効期間の開始年度より3年前の年度以降に入学した学生です。それより前に入学した学生は履修登録ができません(注)。

ただし、履修登録した学生であっても、認定有効期間終了後に卒業・修了した場合は、JABEE認定プログラム修了生とすることはできません。

なお、JABEE認定プログラムに履修登録された学生が規定の就学年限を超える学修・研究を経てそのプログラムを卒業・修了しても、卒業・修了年度が認定有効期間内であればJABEE認定プログラム修了生として認められます。

(注) この条件によりJABEE認定プログラムの履修登録がされない学生が、留年等により学修期間を延長した結果、認定有効期間中に卒業・修了した場合でも、通常はJABEE認定プログラム修了生とはなりません。

以上

認定プログラム責任者ならびに教職員の皆様

一般社団法人日本技術者教育認定機構

認定プログラム修了生への技術士に関する説明と資料配布のお願い

ご高承の通り、JABEE 認定プログラム修了生は、技術士試験の第一次試験合格者と同等の「修習技術者」となりますが、実際に技術士を目指す修了生はまだ多いとは言えません。修了生の皆様に技術士についての理解を深めていただくことは、卒業後の研鑽のモチベーションを高め、これからのキャリア形成に寄与するとともに、国際的に、また今後は国内でも重要度が高まりつつある技術士資格の取得に結びつきます。

つきましては、修了証の授与にあたり、修了生の皆様に次の事項をご説明の上、「技術士への道」を配布していただければ幸甚に存じます。

- (1) JABEE 認定プログラム修了生は技術士資格第一次試験が免除され、試験合格者と同様の「修習技術者」となる。
- (2) ただし、「修習技術者」として日本技術士会から情報や支援を得るためには、個々の修了生が連絡先を登録する必要がある。
- (3) 「修習技術者」としての連絡先の登録及び国家資格である「技術士補」の登録については「技術士への道」を参照願いたい。

「技術士への道」は JABEE ウェブサイトの下記のページに掲載しておりますので、必要に応じてダウンロードしてご使用願います。

Home>JABEE 認定とは>技術士への道
https://jabee.org/about_jabee/gijutsushi

また、日本技術士会は JABEE 認定プログラムからのご依頼があれば、「技術士及び技術士制度に関わる説明会」の開催や開催支援・協力を行っておりますので、是非ご活用ください。

《"技術士及び技術士制度" に関わる説明会実施のご案内サイト》
https://www.engineer.or.jp/c_topics/000/000021.html

以上

日本技術者教育認定機構
〒108-0014 東京都港区芝 5-26-20
(建築会館 4F)
電話 03-5439-5031
FAX 03-5439-5033
E-mail accreditation@jabee.org

自己点検書

(1. 概要編)

対応基準：日本技術者教育認定基準（2019年度～）
適用年度：2021年度

宮崎大学

電気システム工学科

(エンジニアリング系学士課程)

(電気・電子及び関連の工学分野)

Electrical and Systems Engineering

審査分類：認定継続審査

提出日 2021年 6月 28日

1.1 プログラム情報

(1) 高等教育機関名およびその英語表記：宮崎大学 University of Miyazaki

(2) プログラム名：電気システム工学科

(3) Program Title：Electrical and Systems Engineering

(4) 学位名：学士（工学）

(5) 連絡先

・JABEE 対応責任者氏名：横田 光広

所属・職名：工学教育研究部・工学教育研究部長

郵便番号：889-2192

住所：宮崎市学園木花台西 1-1

電話番号：0985-58-2869

ファックス番号：0985-58-2869

メールアドレス：t0b210u@cc.miyazaki-u.ac.jp

・プログラム責任者氏名：迫田 達也

所属・職名：工学教育研究部・教授

郵便番号：889-2192

住所：宮崎市学園木花台西 1-1

電話番号：0985-58-7350

ファックス番号：0985-58-7350

メールアドレス：sakoda@cc.miyazaki-u.ac.jp

1.2 プログラム概要（プログラムの概要を2ページ程度で簡潔に記載する）

※ 参考 Web URL : を記載するだけでなく、内容を転記する必要はありません。

1. プログラムの沿革（これまでの学科／専攻・コース改組の経緯など）

宮崎大学工学部は、2012年度の改組改編により、工学基礎教育センター、環境・エネルギー工学研究センター、国際教育センターの新設や学科構成の見直しを行い、環境応用化学科、社会環境システム工学科、環境ロボティクス学科、機械設計システム工学科、電子物理工学科、電気システム工学科、情報システム工学科の7学科および3センターの連携協力による教育・研究分野の高度化、学際化、総合化を推し進め、21世紀の地球環境と共生できる科学技術の創造と、それを担う人間性豊かな人材の育成を目指している。ただし、旧プログラムで行ってきた優れた教育システムを継承するとともに、少人数教育の充実を図るために、旧電気電子工学科での入学者定員88名を電気システム工学科では49名に減員している。なお、本プログラムは、電気システム工学科の入学者全員を対象としている。

学科の教育分野は、電気システム基礎、電子回路・情報通信システム、電気エネルギーシステムの3つに大別される。電気システム工学技術者として社会で通用する基礎知識と応用能力を備えた専門技術者の育成を目指して、学生の専門的能力を各個人に応じて高め、様々な社会の要請に応える即戦力・実践重視の教育に取り組んでいる。なお、学生の受け入れは、工学部の全学科で入学者選抜の一般入試における前期日程・後期日程ともに第2志望学科を選択できるようになっており、例えば第1志望の学科が不合格となった場合でも第2志望の学科で合格となる場合がある。

2. 修了生の進路と育成する技術者像との関係

本プログラムでは、現代社会において必要不可欠な電気電子関連技術の広範囲な教育研究分野を包含するとともに、それらの分野が密接に関連し合う電気システム基礎、電子回路・情報通信システムと電気エネルギーシステムに関する教育研究を通じて応用能力を有する創造性豊かな人材を育成する。加えて、多種多様な考えを持った学生の専門的能力を各個人に応じて高め、様々な社会の要請に応える即戦力・実践重視の教育を行っている。この理念の下、プログラム修了生の内、毎年約50%弱が大学院へ進学し、残りの修了生が電気電子関連企業を中心に就職している。大学院進学者の大部分は本学の大学院に、数名が他大学の大学院に入学することがある。年度末での就職確定率は毎年ほぼ100%である。

3. 学習・教育到達目標の特徴や水準に該当する説明

学習・教育到達目標の特徴及び水準は前回までの受審において一定以上の水準であることが確認されている。学科の教育は、電気システム基礎、電子回路・情報通信システム、電

気エネルギーシステムの 3 つの分野を中心に据え、電気システム工学技術者として社会で通用する基礎知識と応用能力を備えた専門技術者の育成を目指して、学生の専門的能力を各個人に応じて高め、様々な社会の要請に応える即戦力・実践重視の教育に取り組んでいる。

4. 関連する他の教育プログラム（関連学科／専攻）との関係に該当する説明

本プログラムに関連する教育プログラムはない。なお、数学、物理、化学の工学基礎教育について、工学部全教員がその専門性を考慮しながら分担している。

5. カリキュラム上の特色に該当する説明

少人数教育の充実を図りながら、学科の教育の特徴である、電気システム基礎分野、電子回路・情報通信システム、電気エネルギーシステムの 3 つの分野をカバーしている。また、本プログラムに基づくカリキュラムでは、電磁気学、電気回路を電気電子工学における主要な基礎科目として位置づけ、週 2 時間の講義に続けて 2 時間の演習を配置している。さらに、1 つの講義に対し、予習復習を含め十分な時間をもって受講させるため、1 学期間に受講できる科目の単位数を 25 単位に制限している。これにより、学生が単位取得だけを目的に受講するのではなく、受講科目を確実に理解することが可能となる。

6. その他の特色に該当する説明

- 1 年次における「大学教育入門セミナー」、「大学教育専門セミナー」、2 年次における「電気システム工学基礎演習」、3 年次における「電気システム工学課題演習 I」、「電気システム工学課題演習 II」、「電気システム工学プロジェクト実験 I」、「電気システム工学プロジェクト実験 II」、4 年次における「卒業研究」では少人数教育を実施し、きめ細かな教育および指導を行うとともに、学生と教員の間関係を密接にしている。
- 各学年に担任及び副担任を配し、入学時から卒業まで、学業を中心とした諸相談に対応している。特に 4 年次では進学指導と就職指導および斡旋を行っている。

1.3 最近の教育改善活動の状況

※ 教育機関の Web ページ等での説明を利用できる場合は、その URL を記載するだけでなく、内容を転記する必要はありません。

※ 学生の学習・教育到達目標の達成状況に関する評価結果に基づき、また社会の変化に対応して、教育活動の基準 1 - 3 に則した点検をどのように実施しているかを簡潔に説明してください。さらに、その点検結果に基づいて、改善が必要と判断した事項があった

場合はその改善事項に対する対応について記してください。また、点検結果に基づいて、現在の教育活動に問題がなく改善の必要がないと判断している場合は、その根拠を簡潔に説明してください。

- ※ 最近の教育改善活動の状況について、PR したい点も含めて簡潔に説明してください。また、これまでに JABEE による認定審査を受けている場合は、過去の審査での指摘事項に対して取られた教育改善などについても言及してください。
- ※ 当該プログラムの教育に関して、教育改善のための研究活動や、それに関する論文発表や対外発表などがあれば、それについて具体的に記載してください。また、当該プログラムの教育活動に関連して開催したシンポジウムや、他の教育機関などからの講演依頼等もあれば記載してください。

本プログラムでは、学生と教員が、一体となって本プログラムに真剣に取り組んでいる。学生にあつては、授業評価アンケートと Web クラスの学習カルテ・履修システムを利用した学習目標達成度評価により、自分の学習状況と受講のあり方の反省と振り返りに取り組み、教員にあつては学期、科目毎に教育改善のための「FD 報告書」を作成している。加えて、教育改善に対する組織が整備されている。総合的に本プログラムの改善に取り組むことを目的とした教育点検システムと、各教員が担当する講義科目の改善を目的とした教育点検システムが存在している。前者は学科内の「教育改善委員会」、「FD 委員会」及び「学科会議」が PDCA サイクルのそれぞれの役割を担い、プログラム全体の改善に取り組んでいる。後者は「FD 報告会」を通じた点検システムである。「FD 報告会」はプログラム外の委員を招き、客観的な点検・評価する事を目的とし、半期に 1 回実施している。具体的には、授業改善アンケートの集計結果及び「FD 報告会」での議論、これに加えて「教育改善委員会」の主導で開催される「学生と教員の懇談会」での収集意見を参考にした上で、「教育改善委員会」が講義の実施方法の改善案の骨子を「学科会議」で示し、学科の構成員で議論して改善策を実行する。また、本プログラムの教育活動、留年生を出さない対応、就職対応等について、工学部で開催している「草の根FD活動報告会」(令和3年3月30日 16:00-17:30)で本プログラム構成員が講演している。

1.4 新型コロナウイルス感染症の影響により採られた教育内容の記載

- ※ 新型コロナウイルス感染症の影響により、オンライン等に変更されて実施された教育方法や教育内容に関しては、教育機関全体としての対応方針（特に、実験、実習はどういう方法を採用したか等）を簡潔に記載してください。個々の科目の対応については記載不要です

令和2年度の講義は、原則、遠隔授業となった。しかしながら、電気回路や電磁気学等の低学年開講科目においては4回に1回程度の割合でソーシャルディスタンスを確保できるような講義室において対面で授業を行うとともに、演習科目については極力対面授業を行った。ただし、令和2年10月1日からの2週間、及び令和3年1月4日からの2週間は大学の指示で対面授業が禁止されたため、演習も遠隔での対応となった。

2年生に開講している電気システム工学基礎実験と電気システム工学応用実験は、オリエンテーションや実験座学のみ遠隔授業としたが、実験及びレポート指導は対面禁止期間では行わず延期し、実験室を2箇所から4箇所に、レポート指導用講義室を1室から2室に増やし、コロナ感染を防ぐ形で実施した。

1.5 自己点検結果編の総括文

※ 自己点検結果編を総括し、認定基準に対するプログラム全般の状況について簡単に説明してください。認定基準に対する適合度が特に高い項目や、今後さらに強化が必要な項目など、認定審査を行う際にポイントとなる事項についても言及してください。

本プログラムでは、自立した技術者の育成を目的として学習教育到達目標(a)-(h)の内容を具体化したプログラム独自の学習・教育目標を設定し学内外に公開するとともに、プログラムの選抜方針（アドミッションポリシー）を設定し、公開している。同アドミッションポリシーに沿う形で具体的に入学選抜法が設定・公開され、これに基づいて選抜試験が実施されている。また、本プログラムの学習・教育目標を達成するための能力を持った十分な数の教員と支援体制を構築すると共に、プログラムの学習・教育目標を達成するのに必要な教室、実験室、演習室、図書室、情報関連設備、自習・休憩設備および食堂等の環境も整備されている。

入学した学生に対しては、学務規則において4年間の修業年限を規定し、工学部キャンパスガイド（学生便覧）において卒業に必要な単位数を128単位と規定し、同規則において卒業生の学位を学士と規定している。また、各科目と学習・教育目標との対応関係を明確に示すと共に学習・教育目標を十分達成できるカリキュラムを設計し、開示している。さらに、適切な内容のシラバスが作成され、その中でも学習・教育目標との対応が記されている。なお、評価方法と評価基準についてもシラバスに示し、各科目の目標に対する達成度を評価している。

学生への支援体制として、①学年担任・副担任制、②附属図書館、③国際教育センター及び宮崎大学英語学習支援システム(同システムの運用は2020年10月30日まで)、④学生なんでも相談室、⑤学科学生支援委員会、⑥情報基盤センター、の6項目が存在する。

これらは学生並びに教職員に開示され、活動実績もあり支援体制としての機能を果たしている。学生自身による到達度の確認は、① 評価物の確認、②成績不振者に対する担任・副担任の指導、③学生自身による学習・教育目標達成度の点検の3つで行い、継続的に点検させる仕組みを取っている。ただし、③の学生自身による学習・教育目標達成度の点検は、学生が十分にシラバスの内容を把握した上で行われるべきであるが、各科目の学習・教育目標は十分に理解しない状態で授業に臨んでいる学生がいる。これを改善するために、第1回目の授業時のシラバス内容説明に加えて、中間テストの前後にも再度説明を行うなどの工夫を進めている。

本プログラムには、PDCAのサイクルを通して総合的に改善に取り組む教育点検システムと各教員が担当する講義科目の改善に取り組む教育点検システムが存在し、それらは本プログラム構成員に開示され、実際に活動されている。また、各種委員会による活動の内容は教室会議において報告がなされる（教室会議の議事録は全教員に配布（配信））と共に、学科のホームページにおいて構成員はいつでも確認可能である。さらに、定期的なアンケートの実施や学生と教員の懇談会等の取り組みを通し、社会の要求や学生の要望に応えるシステムが存在している。また、プログラム外委員による教育点検システム自体を点検できる構成となっている。以上の、本プログラムの教育点検システムは認定基準の特に高い項目であると考えている。

日本技術者教育認定機構
〒108-0014 東京都港区芝 5-26-20
(建築会館 4F)
電話 03-5439-5031
FAX 03-5439-5033
E-mail accreditation@jabee.org

自己点検書

(2. 自己点検結果編)

対応基準：日本技術者教育認定基準（2019年度～）
適用年度：2021年度

宮崎大学

電気システム工学科

(エンジニアリング系学士課程)

(電気・電子及び関連の工学分野)

Electrical and Systems Engineering

審査分類：認定継続審査

提出日 令和3年 6月28日

記入上の注意

- 白色の欄にのみ記入してください。着色のある欄には記入しないでください。
- 「自己判定結果」欄に、プログラム側の視点で自己判定結果を記入してください。自己判定の指標は下記のとおりです。
 - ◎：認定基準の要求事項を高い水準で満たしている
 - ：認定基準の要求事項を満たしており、適合の度合いを高めるための取り組みを行っている
 - △：認定基準の要求事項を満たしているが、改善の余地がある
- 「基準への適合状況の説明」欄に、進行中の改善の取り組みがあれば、その内容も含めて説明を簡潔に記入してください。
- 「前回受審時からの改善・変更」欄には、下記の説明を記入してください。なお、新規審査の場合は記入不要です。
 - (1) 前回受審時の「W：弱点」に対する対応
 - (2) 前回受審時の「[C]：懸念」に対する対応
 - (3) その他の前回受審時からの改善，変更
- 「根拠資料」欄には、根拠となる資料の名称と整理番号又は Web ページの URL を記入してください。
- 添付資料，実地審査閲覧資料には整理番号を付し，該当する資料の整理番号を「根拠資料」欄に記入してください。
- なお，整理番号は，添付資料と実地審査閲覧資料が区別できるよう付してください（例：Txx と Jxx）。
- この欄に記載した資料に対応させて，添付資料編の表 5 及び表 6 の一覧表を作成してください。
- Web ページで公開されているものについては URL を記入してください。その場合でも，負担にならない範囲で自己点検書の添付資料に含めてください。

基準への適合状況の説明（進行中の改善の取り組みを含む）において、他プログラムの記載内容と同様の箇所は青字で記しています。

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明（進行中の改善の取り組みを含む）	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
1	学習・教育到達目標の設定と公開				
1.1	<p>【自立した技術者像の設定と公開・周知】</p> <p>プログラムは、育成しようとする自立した技術者像を公開し、プログラムに関わる教員及び学生に周知していること。この技術者像は、技術者に対する社会の要求や学生の要望に配慮の上、プログラムの伝統、資源、及び修了生の活躍が想定される分野等を考慮して定められていること。</p>	◎	<p>まず、本プログラムの技術者像および学生の進路等に関して説明し、その後、それらの周知に関して説明する。</p> <p>本プログラムでは、「豊かな人間性」や「社会性・国際性」が身に付き、かつ安全で安心な低炭素・高度情報化社会を実現する基幹技術として電気エネルギー工学や情報・通信システム工学が果たす役割を理解し、それらが融合した新しい産業文化を創出できる人材の育成を目標とした教育を行う。さらに、高い技術者倫理感を持って、変動する多様な社会の要請に応え得る能力を持った電気システム工学分野の専門技術者の育成を行うこととしている。育成したプログラム修了生の40%～50%が大学院へ進学するが、残りの修了生は電気電子関連の企業に就職している。その主な業種は、電気・情報通信機器、電子部品・デバイス、輸送機器、電気・ガス事業であり、これらの業種で活躍できることを念頭に置いている。また、本プログラム修了生及び旧プログラム修了生等により後援会・同窓会組織を構築しており、年に1度、宮崎大学、関東地区、中部地区、関西地区、北部九州地区で同窓会を開催し（令和2,3年度はコロナ感染防止の観点から中止）、卒業生と意見交換すると共に企業のニーズを吸い上げるようにしている。</p> <p>育成しようとする本プログラムの技術者像については、工学部キャンパスガイド及びホームページで公開しており、学生、教員や非常勤講師も確認できる。さらに、学生は、毎年の学期開始時（4月）に実施している「オリエンテーション」の中で、教育改善委員会作成資料を用いて学年担任が説明を行っている。なお、「オリエンテーション」は1年生から大学院修士課程2年生までの全ての学生を対象に実施している。</p>		<p>【技術者像の開示：W-1-1】 http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/JABEE.html 【技術者像の開示：T-1-1】 令和2年度キャンパスガイド(p171)</p> <p>【令和元年及び2年度修了生就職先：W-1-2】 https://www.opt.miyazaki-u.ac.jp/2021jabee/ フォルダ「学生指導関係資料（就職指導含む）」内日本語が文字化けする場合はブラウザの文字コードを「Unicode (TF-8)」にご設定ください。</p> <p>【令和2年度修了生の就職先一覧：T-1-2】</p> <p>【2019年度同窓会開催案内：W-1-3】 https://www.web-dousoukai.com/miyazaki-eng/category/secretariat/page/2/ 【2019年度同窓会開催案内：T-1-3】 （同窓会ホームページで公開）</p> <p>【オリエンテーション開催案内：W-1-4】 http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/mediadata/pdf/notification_20210323b.pdf 【オリエンテーション開催案内：T-1-4】 （工学部ホームページで公開）</p> <p>【JABEE オリエンテーション資料：W-1-5】 学科オリエンテーション（平成25年度用）(miyazaki-u.ac.jp) 【JABEE オリエンテーション資料で公開：T-1-5】 （学科ホームページで公開）</p>

<p>1.2 【学習・教育到達目標の設定と公開・周知】</p> <p>プログラムは、プログラム修了生全員がプログラム修了時に確実に身につけておくべき知識・能力として学習・教育到達目標を定め、公開し、かつ、プログラムに関わる教員及び学生に周知していること。この学習・教育到達目標は、自立した技術者像(認定基準1.1)への標(しるべ)となっており、下記の知識・能力観点(a)～(i)を水準を含めて具体化したものを含み、かつ、これら知識・能力観点に関して個別基準に定める事項が考慮されていること。</p> <p>(a) 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養</p> <p>(b) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者の社会に対する貢献と責任に関する理解</p> <p>(c) 数学、自然科学及び情報技術に関する知識とそれらを用いる能力</p> <p>(d) 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを用いる能力</p> <p>(e) 種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力</p> <p>(f) 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力</p> <p>(g) 自主的、継続的に学習する能力</p> <p>(h) 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力</p> <p>(i) チームで仕事をするための能力</p>	<p>本プログラムでは、自立した技術者の育成を目的として学習教育到達目標(a)-(i)の内容を具体化したプログラム独自の学習・教育到達目標を設定し学内外に公開するとともに、プログラムの選抜方針(アドミッションポリシー)を設定し、公開している。また、同アドミッションポリシーに沿う形で具体的に入学選抜法が設定・公開され、これに基づいて選抜試験が実施されている。なお、本プログラム独自の学習・教育到達目標は以下のように設定されている。</p> <p>●学習・教育到達目標(A-1)は「広い視野から多面的に物事を考える能力を身につける」、(E)では、「技術者に求められる倫理観を身につける」としており、専門分野にかかわらず広い視野から多面的なものの見方ができる能力を習得できるようにしている。従って、<u>(a)の内容が具体化</u>できている。</p> <p>●学習・教育到達目標(E)では、「技術者に求められる倫理観を身につける」としており、技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任に関する理解能力を養うこととしているため、<u>(b)の内容が具体化</u>できている。</p> <p>●学習・教育到達目標(A-2)では「技術者にとって必要となる数学を含めた自然科学の知識を身につける」としており、主に数学、物理学、情報技術を中心とした自然科学の知識があり、かつ、応用できる能力を養うこととしているため、<u>(c)の内容が具体化</u>できている。</p> <p>●学習・教育到達目標(A-3)では「専門基礎として電磁気学、電気回路などの知識を身につける」としている。また、(B)では「電気エネルギー及び情報通信分野に関する専門技術と実践能力を身につける」としている。さらに、(C)でも専門知識とそれらを用いる能力を養わせるようにしており、<u>(d)の内容が具体化</u>できている。</p> <p>●学習・教育到達目標(C-3)は「解決した問題点を総合的に考察できる能力を身につける」としており、種々の科学、技術、情報を活用して社会の要求を解決する能力を習得できるようにしている。従って、<u>(e)の内容が具体化</u>できている。</p> <p>●学習・教育到達目標(D-1),(D-2),(D-3),(D-4)では、実験レポートや卒業論文などにおいて、日本語で論理的な記述ができる能力を身につけること、プレゼンテーションの技術を習得すること、相手が話している内容を理解し、その要点をまとめる能力を身につける、英語の文献や資料を読み、その内容を理解できる能力を身につけることとしており、<u>(f)の内容を具体化</u>している。</p> <p>●学習・教育到達目標(F-1)及び(F-2)では、課題や問題に対して、自律的、継続的に取り組むことが出来る能力を身につける、問題解決するための文献調査・収集・整理する能力を身につけることとしており、自主的、継続的に学習する能力を目標とした<u>(g)の内容を具体化</u>している。</p> <p>●学習・教育到達目標(C-2)では、自主的およびチームで問題・課題を解決するための手段を計画・実行し、実験やシミュレーション及びその過程における考察・議論を経て、問題を解決する能力を身につける、(F-1),(F-2)では課題に対して文献調査・収集・整理能力も含めて自律的、継続的に取り組むことが出来る能力を身につけることとしており、<u>(h)の内容を具体化</u>している。</p> <p>●学習・教育到達目標(C-2)では、自主的およびチームで問題・課題を解決するための手段を計画・実行し、実験やシミュレーション及びその過程における考察・議論を経て、問題を解決する能力を身につけるとしており、チームで仕事をするための能力に関する<u>(i)を具体化</u>している。</p> <p>本プログラムでは、各科目と学習・教育到達目標との対応関係を明確に示すと共に、学習・教育到達目標を十分達成できるカリキュラムを設計し開示している。また、適切な内容のシラバスを作成し、シラバス中にも学習・教育到達目標との対応を記している。さらに、評価方法と評価基準についてもシラバスに示し、各科目の目標に対する達成度を評価している。なお、各科目のシラバスは初回講義時に担当教員が受講学生に対して説明し、周知している。</p>	<p>ディプロマポリシーと JABEE における学習教育到達目標を統一するという工学部の方針に基づき、平成 29 年度(2017 年度)のキャンパスガイド以降、記載の一部の表現を前回受審時(平成 27 年度(2015 年度))のものに変更している。これは、学生に対して、これまで以上に明確に且つ分かりやすく学習教育到達目標を伝えるための変更であり、従前の学習教育到達目標と主旨は全く変わっていない。</p>	<p>【プログラム独自の学習・教育到達目標：W-1-6】 http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/JABEE.html 【プログラム独自の学習・教育到達目標：T1-6】 (学科ホームページで公開)</p> <p>【入学選抜方法：W-1-7】 http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/ippan.html 【入学選抜方法：T-1-7】 (学生募集要項の工学部の部分)</p> <p>【アドミッションポリシー：W-1-8】 http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/01-3.R3_ippan_APkou.pdf 【アドミッションポリシー：T-1-8】 (学生募集要項の工学部の部分)</p> <p>【カリキュラム及び科目の流れ図：W-1-9】 http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/data/JABEEkamokuVer5.pdf 【カリキュラム及び科目の流れ図：T-1-9】 (学科ホームページで公開)</p> <p>【シラバス検索システム：W-1-10】 https://webclass.eden.miyazaki-u.ac.jp/webclass/ip_mods.php/addon/miyazaki-u/plugin/syllabus/search?acs_cc3a0d0c 【シラバスの例：T-1-10】</p>
---	--	---	---

			<p>上記の学習・教育到達目標に関する情報は学科ホームページ，工学部ロビーの学科掲示板，工学部 E 棟の各階の掲示板でも確認できる。また，学年担任は，毎年学期開始時（4 月）の「オリエンテーション」の中で，学科教育改善委員会作成資料を用いて学習・教育到達目標に関する説明を学生に対して行っている。</p>		<p>【JABEE オリエンテーション資料：W-1-5】 学科オリエンテーション（平成25年度用）(miyazaki-u.ac.jp) 【JABEE オリエンテーション資料で公開：T-1-5】</p> <p>【プログラム独自の学習・教育到達目標：W-1-6】 http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/JABEE.html 【プログラム独自の学習・教育到達目標：T-1-6】 （学科ホームページで公開）</p>
2	教育手段				
2.1	<p>【カリキュラム・ポリシーに基づく教育課程，科目の設計と開示】 プログラムは，公開されている教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)に基づく教育課程(カリキュラム)において，各学習・教育到達目標に関する達成度評価の方法及び基準，ならびに，科目ごとの学習・教育到達目標との対応，学習・教育内容，到達目標，評価方法，及び評価基準，を定め，授業計画書(シラバス)等によりプログラムに関わる教員及び学生に開示していること。なお，教育内容に関する必須事項を，必要に応じて個別基準で定める。</p>	◎	<p>各科目のシラバスにおいては，各学習・教育到達目標に関する達成度評価の方法及び基準，ならびに，科目ごとの学習・教育到達目標との対応，学習・教育内容，到達目標，評価方法，及び評価基準を定めている。</p> <p>カリキュラム，科目の流れ図及びシラバスは工学部キャンパスガイド，ホームページを通して教員および学生に対して開示されており，大学内外からアクセス可能である。また，カリキュラムの時間割は，各学期初めにホームページで公開すると共に，4 月に全員に配布される。</p>		<p>【シラバス検索システム：W-1-10】 https://webclass.eden.miyazaki-u.ac.jp/webclass/ip_mods.php/addon/miyazaki-u/plugin/syllabus/search?acs =cc3a0d0c 【シラバスの例：T-1-10】 （webclass にて公開）</p> <p>【カリキュラム及び科目の流れ図：W-1-9】 http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/data/JABEEkamokuVer5.pdf 【カリキュラム及び科目の流れ図：T-1-9】 （学科ホームページで公開）</p> <p>【時間割：W-2-1】 https://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/student/schedule/ 【時間割の例：W-2-1】 （工学部ホームページで公開）</p>

<p>2.2</p>	<p>【シラバスに基づく教育の実施と主体的な学習の促進】</p> <p>プログラムは、シラバス等に基づいて教育を実施し、カリキュラムを運営していること。カリキュラムの運営にあたり、プログラムは、履修生に対して学習・教育到達目標に対する自身の達成度を継続的に点検・反映することを含む、主体的な学習を促す取り組みを実施していること。</p>	<p>シラバスには、教育内容・方法については、「教育目的」、「教育到達目標」、「講義計画」として示されている。達成目標については、教育到達目標の中で達成目標が示されている。成績評価方法・評価基準については、「成績の評価基準」として示され、プログラム内での位置付けについても記載されている。</p> <p>カリキュラムの時間割はホームページで閲覧できることに加えて、4月のオリエンテーションで配布される時間割に示されている。授業実施記録は各科目でとり、シラバスに沿って実践されているか、学科FD報告会、FD報告書で確認できる。</p> <p>なお、以下の4つの方法で学生に自分自身の到達度を継続的に点検させ、その学習に反映させている。全項目ともに十分満たされている。①評価物の確認(定期試験に加えて、小テストや中間テストはプログラム履修生が確認できる。)、②成績不振者に対する担任の随時の指導及び各学期末に担任・副担任が全プログラム履修生と面談を行う、③全科目で実施する授業アンケートで学生自身による学習・教育到達目標達成度の点検、④Webclassの学習カルテ・履修システム。</p> <p>主体的な学習を促す取り組みとして、シラバスでは“復習も含めて平均で1回の授業につき3時間程度の学習時間が必要である。”と示し、プログラム履修生に予習・復習を促している。各科目のシラバスは初回講義時に担当教員が受講学生に対して説明し、周知している。さらに、各科目では期末試験の他に、課題や小テスト、中間試験を行い、主体的な学習を促している。なお、学習・教育到達目標(F-2)は、“課題や問題に対して、自律的、継続的に取り組むことが出来る能力を身につける”としており、課題や問題に対して、自律的、継続的に取り組むことが出来る能力を身につけさせるようにしている。(F-2)を達成する科目は、「電気システム工学プロジェクト実験Ⅱ」および「卒業研究」である。「電気システム工学プロジェクト実験Ⅱ」では、課題をどのように設定し取り組んだかについてレポートにまとめさせて評価している。</p> <p>◎ 「卒業研究」においては、自ら選択したテーマについて、課題をどのように設定し取り組み、どのような結果を導いたかについて卒業論文及び卒業論文発表会において指導教員を含む3名の教員が個々に採点して総合的に評価するようにしている。このような取り組みを通して、プログラム履修生に主体的な学習を促している。</p>	<p>【シラバス検索システム：W-1-10】 https://webclass.eden.miyazaki-u.ac.jp/webclass/ip_mods.php/addon/miyazaki-u/plugin/syllabus/search?acs=cc3a0d0c 【シラバス例：T-1-10】 (webclassにて公開)</p> <p>【時間割：W-2-1】 https://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/student/schedule/ 【時間割の例：W-2-1】 (工学部ホームページで公開)</p> <p>【学科FD報告会議事録：W-2-2】 https://www.opt.miyazaki-u.ac.jp/2021jabee/ フォルダ「学科FD」内 日本語が文字化けする場合はブラウザの文字コードを「Unicode (TF-8)」にご設定ください。 【学科FD報告会議事録例：T-2-2】</p> <p>【FD報告書：W-2-3】 https://www.opt.miyazaki-u.ac.jp/2021jabee/ フォルダ「学科FD」内 【FD報告書の例：W-2-3】</p> <p>【担任との面談アナウンス：W-2-4】 (学科HPのお知らせ) http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/ 【担任からの面談アナウンス例：T-2-4】 (webclassを介した学生への連絡)</p> <p>【授業アンケート：W-2-5】 https://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/student/questionnaire/ 【授業アンケートの例：T-2-5】 (各科目のFD報告書内で確認できる)</p> <p>【学習カルテ・履修システム：W-2-6】 https://carte.eden.miyazaki-u.ac.jp/admins/Top 【学習カルテ・履修システム：T-2-6】 (webclassから利用できる)</p> <p>【電気システム工学プロジェクト実験Ⅱ評価項目：W-2-7】 https://www.opt.miyazaki-u.ac.jp/2021jabee/ フォルダ「講義資料」内 【電気システム工学プロジェクト実験Ⅱ評価項目：T-2-7】</p> <p>【卒業研究評価項目：W-2-8】 https://www.opt.miyazaki-u.ac.jp/2021jabee/ フォルダ「講義資料」内 【卒業研究評価項目：T-2-8】</p>
------------	--	--	---

2.3	<p>【教員団, 教育支援体制の整備と教育の実施】 プログラムは, 上記 2.1 項, 2.2 項で定めたカリキュラムに基づく教育を適切に実施するための教員団及び教育支援体制を整備していること。この教育支援体制には, 科目間の連携を図ってカリキュラムに基づく教育を円滑に実施する仕組み, 及び, 教員の教育に関する活動を評価した上で質的向上を図る仕組みを含むこと。加えて, プログラムは関係する教員にその体制を開示していること。なお, 教員団及び教育支援体制に関する勘案事項を必要に応じて個別基準で定める。</p>	<p>学科の教育は, 電気システム基礎, 電子回路・情報通信システム, 電気エネルギーシステムの3つの分野を中心にするとし, 2020年3月時点では, 5名の教授, 3名の准教授, 2名の助教により構成される。これら教員の他に, 工学部教育研究支援技術センターから, 実験指導の補助等のために技術職員2名の支援を受けている。また, 講義, 演習, 実験のうち, 補助の必要な科目に TA を配置して, 教員の教育支援にあてている。</p> <p>FD 活動は, 学部および学科 FD 委員会が中心に実施している。また, 工学部では, 「電磁気学」, 「数学」, 「技術者倫理と経営工学」, 「工学英語」で教員間連絡ネットワークを立ち上げ活動している。本プログラムでも学科 FD 委員会のもとに半期毎に, FD 報告会を実施して意見交換している。加えて「工学部草の根 FD 活動」にも取り組んでおり, 学科の枠を超えた様々な FD 活動に関する報告会を通して教育の実施方法等に関する意見交換を行っている。さらに, 新任および昇任教員の授業参観も行っている(それ以外の教員は既に実施済み)。プログラム構成員が, 講義実施者の授業の進む早さ, 聞きとりやすさ, 板書の分かり易さ, 教科書や資料の分かり易さ等を確認し, 気付いた点を講義実施者に伝えている。また, 他の教員の講義方法を確認することで, 自らの教育方法の向上も図ることができる。</p>		<p>【教員・研究室一覧：W-2-9】 http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/research.html 【教員・研究室一覧：T-2-9】 (学科ホームページで公開)</p> <p>【工学部教育研究支援技術センター：W-2-10】 宮崎大学工学部技術センター (miyazaki-u.ac.jp) 【工学部教育研究支援技術センター：T-2-10】 (工学部ホームページで公開)</p> <p>【TA 配分表：W-2-11】 https://www.opt.miyazaki-u.ac.jp/2021jabee/ フォルダ「講義資料」内 【2020年度 TA 配分表：T-2-11】</p> <p>【工学部 FD：W-2-12-1】 http://www.miyazaki-u.ac.jp/cess/fd/index.html フォルダ「講義資料」内 【工学部草の根 FD 活動：T-2-12-1】</p> <p>【教員間連絡ネットワーク：W-2-12-2】 https://www.opt.miyazaki-u.ac.jp/2021jabee/ フォルダ「学科主催行事・懇談会」内 【教員間連絡ネットワーク会議議事録例：T-2-12-2】</p> <p>【授業参観実施報告：W-2-12-3】 https://www.opt.miyazaki-u.ac.jp/2021jabee/ フォルダ「学科主催行事・懇談会」内 【授業参観実施報告：T-2-12-3】</p>
2.4	<p>【アドミッション・ポリシーとそれに基づく学生の受け入れ】 プログラムは, カリキュラムに基づく教育に必要な資質を持った学生をプログラムに受け入れるために定めた受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を公開し, かつ, 同方針に基づいて学生を受け入れていること。</p>	<p>プログラムの選抜方針(アドミッションポリシー)を設定している。アドミッションポリシーに沿う形で具体的に選抜方法が設定され, これに基づいて選抜試験が実施されている。広い資質の学生を受け入れるために, 複数の選抜方法が実施されている。</p> <p>受験生に渡される選抜方式ごとの学生募集要項：一般入試学生募集要項, 推薦入試学生募集要項(2020年度入学生まで実施, 2021年度入学生より総合型選抜実施), 社会人, 私費外国人留学生入試学生募集要項およびホームページ上で公開されている。</p> <p>本学科への入学者の選抜は, 一般入試(前期, 後期), 推薦入試(2020年度入学生まで実施, 2021年度入学生より総合型選抜として実施), 社会人, 私費外国人留学生入試の以上4種類の入試に関して, 公開されているアドミッションポリシーに沿って実施している。</p>		<p>【アドミッションポリシー：W-1-8】 http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/01-3_R3_ippan_APkou.pdf 【アドミッションポリシー：T-1-8】 (学生募集要項の工学部の部分)</p> <p>【入学者選抜方法：W-1-7】 http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/ippan.html 【入学者選抜方法：T-1-7】 (学生募集要項の工学部の部分)</p>

<p>2.5</p>	<p>【教育環境及び学習支援環境の運用と開示】 プログラム又はプログラムが所属する高等教育機関は、教育の実施及び履修生の学習支援のために必要な施設、設備、体制を保有し、それを維持・運用・更新するために必要な取り組みを行っていること。その取り組みをプログラムに関わる教員、教育支援体制の構成員、及び履修生に開示していること。</p>	<p>教室、実験室、演習室、図書室、情報基盤センター、自習室、休憩場所、食堂等いずれも学生定員に準じて整備されている。また、工学部として、施設、設備管理に関する予算を毎年確保している。さらに、2022年度以降に計画されている工学部大改修に向けた準備が始まっている。</p> <p>学生への支援体制に関しては、以下の①～⑤の6項目が存在する。これらは学生並びに教職員に開示され、活動実績もあり、支援体制としての機能を果たしている。この基準は十分満たされている。①学年担任・副担任制、②附属図書館、③国際教育センター及び宮崎大学英語学習支援システム(同システムの運用は2020年10月30日まで)、④学生なんでも相談室、⑤学科学生支援委員会、⑥情報基盤センター</p>	<p>【工学部講義室配置図：W-2-13】 https://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/mediadata/pdf/room_map.pdf 【工学部講義室配置図：T-2-13】 (工学部ホームページで公開)</p> <p>【キャンパスマップ：W-2-14】 https://www.miyazaki-u.ac.jp/access/kibana/ 【キャンパスマップ：T-2-14】 (大学ホームページで公開)</p> <p>【学年担任・副担任：W-2-15】 学生支援 of 電気システム工学科 (miyazaki-u.ac.jp) 【学年担任・副担任：T-2-15】 (学科ホームページで公開)</p> <p>【付属図書館：W-2-16】 宮崎大学附属図書館 (miyazaki-u.ac.jp) 【付属図書館：T-2-16】 (大学ホームページで公開)</p> <p>【国際教育センター：W-2-17】 国際教育センター - 宮崎大学 工学部・大学院工学研究科 (miyazaki-u.ac.jp) 【国際教育センター：T-2-17】 (工学部ホームページで公開)</p> <p>【学生なんでも相談室：W-2-18】 学生なんでも相談 (miyazaki-u.ac.jp) 意見箱 Q&A (miyazaki-u.ac.jp) 【学生なんでも相談室：T-2-18】 (大学ホームページで公開)</p> <p>【学科学生支援委員会及び 学生の各種相談窓口：W-2-19-1】 学生支援 of 電気システム工学科 (miyazaki-u.ac.jp) 【学科学生支援委員会：T-2-19-1】 (学科ホームページで公開) 【学生の各種相談窓口：T-2-19-2】</p> <p>【情報基盤センター：W-2-20】 宮崎大学情報基盤センター (miyazaki-u.ac.jp) 【情報基盤センター：T-2-20】 (大学ホームページで公開)</p> <p>【自習室：W-2-21】 各学部自習室のお知らせ (miyazaki-u.ac.jp) 【自習室：T-2-21】 (大学ホームページで公開)</p> <p>【食堂：W-2-22】 食堂：宮崎大学生生活協同組合 (seikyou.ne.jp) 【食堂：T-2-22】 (大学ホームページで公開)</p> <p>【工学部教授会資料（予算書）の例：W-2-23】 https://www.opt.miyazaki-u.ac.jp/2021jabee/ フォルダ「学科運営→学科会議」内 【工学部教授会資料（予算書）の例：T-2-23】</p>
------------	---	--	--

3	学習・教育到達目標の達成			
3.1	<p>【学習・教育到達目標の達成】</p> <p>プログラムは、各科目の到達目標に対する達成度をシラバス等に記載の評価方法と評価基準で評価し、かつ、全修了生が修了時点ですべての学習・教育到達目標を達成したことを点検・確認していること。この達成度評価には、他のプログラム(他の学科や他の高等教育機関)で履修生が修得した単位についての認定も含む。</p>	<p>各学習・教育到達目標に対する達成度は主要科目の単位を修得することによって評価し、同到達目標及び評価方法、また、評価基準はシラバスに示されており、定められた評価方法及び評価基準に従ってプログラム履修生の評価を行っている。大学教育入門セミナー、専門教育入門セミナー、電気システム工学基礎演習、電気システム工学プロジェクト実験Ⅰ及びⅡ、電気システム工学課題演習Ⅰ及びⅡ、卒業研究においては学習・教育到達目標を横断的に評価している。試験レベルおよび採点結果の妥当性は、学科の教員および外部評価委員によって開催されるFD報告会が教育目標達成度を発表し、相互にチェックすることで評価している。また、「卒業研究」は、主指導教員による評価に加え、卒業論文そのものの評価と卒業論文発表会における発表と質疑応答をとおした評価を複数の副指導教員により実施している。</p> <p>次に、他のプログラム(他の学科や他の高等教育機関)で履修生が修得した単位についての認定について説明する。規程上は、宮崎大学学務規則第19条と第21条において、他の高等教育機関等で取得した単位は教授会の議を経て、学部長が認定する。本学学生が放送大学で単位を取得した場合は選択共通科目が、県内の高等教育機関で単位を修得した場合は、選択教養科目が認定される。英語は、検定試験により単位が認定される。</p> <p>◎ また、学生が他の高等教育機関等で取得した単位に関して、その評価方法は単位認定規程、共通教育委員会、工学部教授会の申し合わせで定めた基準があり、それによって実施されている。</p> <p>具体的な編入生の受け入れプロセスは、まず、当学科教務委員が編入前に修得した単位のシラバスと該当する科目のシラバスを科目担当教員と共に確認したうえで、宮崎大学学務規則第22条の宮崎大学既修単位認定規則により評価され、読み替え作業を行う。共通科目の単位は教授会で承認された「編入学生の共通科目および専門科目既修得単位読み替えに関する申し合わせ」により評価され、読み替えを行う。共通科目の認定の上限は38単位であり、相当する科目は一括して認定する。上記の方法に従って、短大もしくは高専での既修得単位の認定が行われ、例えば、令和2年度は2名の編入学生の単位認定が行われた。</p>		<p>【シラバス検索システム：W-1-10】 https://webclass.eden.miyazaki-u.ac.jp/webclass/ip_mods.php/addon/miyazaki-u/plugin/syllabus/search?acs_cc3a0d0c 【シラバス例：T-1-10】 (webclassにて公開)</p> <p>【カリキュラム及び科目の流れ図：W-1-9】 http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/data/JABEEkamokuVer5.pdf 【カリキュラム及び科目の流れ図：T-1-9】 (学科ホームページで公開)</p> <p>【学科FD報告会議事録：W-2-2】 https://www.opt.miyazaki-u.ac.jp/2021jabee/ フォルダ「学科FD」内 【学科FD報告会議事録例：T-2-2】</p> <p>【卒業研究評価項目：W-2-8】 http://www.miyazaki-u.ac.jp/cess/fd/index.html フォルダ「講義資料」内 【卒業研究評価項目：T-2-8】</p> <p>【キャンパスガイド：W-3-1】 https://www.opt.miyazaki-u.ac.jp/2021jabee/ フォルダ「学生指導関係資料(就職指導含む)」内 【キャンパスガイド(p.53-54第19,21,22条)：T-3-1-1】 【キャンパスガイド(p77,既修得単位認定規程)：T-3-1-2】 【キャンパスガイド(p.118-119,外国語科目の単位認定の取り扱い)：T-3-1-3】</p> <p>【編入学単位読み替え資料：W-3-2】 https://www.opt.miyazaki-u.ac.jp/2021jabee/ フォルダ「学生指導関係資料(就職指導含む)」内 【2021年度編入学単位読み替え例：T-3-2】</p>

<p>3.2</p>	<p>【知識・能力観点から見た修了生の到達度点検】 プログラムは、学習・教育到達目標を達成した全修了生が学習・教育到達目標に含めた知識・能力観点(a)～(i)の内容を獲得していることを、点検・確認していること。</p>	<p>各科目の達成目標はシラバスに記されている。試験レベルおよび採点結果の妥当性は、教員がFD報告書の閲覧及びFD報告会でお互いに教育目標達成度をチェックすることで点検・確認している。「卒業研究」に関しては、卒業論文そのものと卒業研究発表会におけるプレゼンテーションを複数の教員で評価し、その結果を相互に点検・確認している。</p> <p>各学習・教育到達目標に対する達成度は主要科目の単位を修得することによって評価する。大学教育入門セミナー、専門教育入門セミナー、電気システム工学基礎演習、電気システム工学プロジェクト実験Ⅰ及びⅡ、電気システム工学課題演習Ⅰ及びⅡ、卒業研究においては学習・教育到達目標を横断的に評価しており、複数の教員による実施体制で評価の客観性を高めるのと同時に互いに確認している。</p> <p>各年度のシラバス及びFD報告書が示すように評価が行われている。さらにFD報告会により講義内容は教員間で互いに発表することで把握され、評価基準に従っているか点検・確認されている。</p> <p>本プログラムでは、各学習・教育到達目標の必要単位を修得することで、目標の達成を評価している。よって、修了生全員が学習・教育到達目標を達成していることが分かる。</p>		<p>【学科FD報告会議事録：W-2-2】 https://www.opt.miyazaki-u.ac.jp/2021jabee/ フォルダ「学科FD」内 【学科FD報告会議事録例：T-2-2】</p> <p>【FD報告書：W-2-3】 https://www.opt.miyazaki-u.ac.jp/2021jabee/ フォルダ「学科FD」内 【FD報告書の例：W-2-3】</p> <p>【キャンパスガイド (p174, 卒業に必要な要件):W-3-3】 https://www.opt.miyazaki-u.ac.jp/2021jabee/ フォルダ「学生指導関係資料 (就職指導含む)」内 【キャンパスガイド (p174, 卒業に必要な要件):T-3-3】</p>
------------	---	---	--	---

4	教育改善			
4.1	<p>【内部質保証システムの構成・実施と開示】プログラム又はプログラムが所属する高等教育機関は、基準 1～3 に則してプログラムの教育活動を点検する内部質保証を組織的に実施し、かつ、その実施内容をプログラムに関わる教員に開示していること。この内部質保証の仕組みには、社会の要求や学生の要望に配慮し、かつ、仕組み自体の機能を点検できる機能を含むこと。</p>	<p>総合的に本プログラムの改善に取り組むことを目的とした教育点検システムと、各教員が担当する講義科目の改善を目的とした教育点検システムが存在している。前者は学科内の「FD 委員会」、「教育改善委員会」、及び「学科会議」が担い、後者は「FD 報告会」を通じた点検システムである。これらが、PDCA サイクルのそれぞれの役割を担いプログラム全体の改善に取り組んでいる。</p> <p>具体的には、「FD 報告会」を半期に 1 回実施して、プログラムに所属する教員には、年に 1 回以上の発表を課しており、プログラム外委員による客観的な点検・評価を行っている。また、「FD 報告会」での議論や「授業評価アンケート」の集計結果、これに加えて「教育改善委員会」の主導で開催される「学生と教員の懇談会」での収集意見を参考にした上で、「教育改善委員会」が講義の実施方法の改善案の骨子を「学科会議」で提案し、学科の構成員で議論して改善策を実行している。なお、「FD 報告会」では、科目間での相互の連携と情報共有を図ることができる。さらに、プログラム外委員を評価員として招いていることから、客観的な点検・評価が可能である。</p> <p>また、社会の要求に配慮するために、プログラム修了生に対して本プログラムに関するアンケートを実施している。学生の要望に配慮するために、卒業生を対象に本プログラムに関するアンケートを実施している。在学生の要望に関しては、「授業評価アンケート」の自由記述欄や「学生と教員の懇談会」での収集意見などを通して取り入れることができる。</p> <p>最後に、各種委員会による活動の内容は教室会議において報告がなされる（教室会議の議事録は各教員に電子メールで配信）と共に、学科のホームページ上でいつでも閲覧できる。</p> <p>◎</p>		<p>【電気システム工学科教育改善ループ：W-4-1】 学科オリエンテーション（平成 25 年度用）(miyazaki-u.ac.jp) 【JABEE オリエンテーション資料中教育改善ループ：T-4-1】 (学科ホームページで公開)</p> <p>【教育目標達成度チェックシステム：W-4-2】 https://www.opt.miyazaki-u.ac.jp/2021jabee/ フォルダ「学科 FD」内 【教育目標達成度チェックシステム：T-4-2】</p> <p>【学科 FD 委員会議事録：W-4-3】 https://www.opt.miyazaki-u.ac.jp/2021jabee/ フォルダ「学科委員会・WG」内 【学科 FD 委員会事録例：T-4-3】</p> <p>【学科 FD 報告会議事録：W-2-2】 https://www.opt.miyazaki-u.ac.jp/2021jabee/ フォルダ「学科 FD」内 【学科 FD 報告会議事録例：T-2-2】</p> <p>【学科教育改善委員会議事録：W-4-4】 https://www.opt.miyazaki-u.ac.jp/2021jabee/ フォルダ「学科委員会・WG」内 【学科教育改善委員会議事録の例：W-4-4】</p> <p>【学科会議議事録：W-4-5】 https://www.opt.miyazaki-u.ac.jp/2021jabee/ フォルダ「学科運営」内 【学科会議議事録例：T-4-5】</p> <p>【授業アンケート：W-2-5】 https://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/student/questionnaire/ 【授業アンケートの例：T-2-5】 (各科目の FD 報告書内で確認できる)</p> <p>【学生と教員の懇談会議事録：W-4-6】 https://www.opt.miyazaki-u.ac.jp/2021jabee/ フォルダ「学科主催行事・懇談会等」内 【学生と教員の懇談会議事録例：T-4-6】</p> <p>【卒業生アンケート結果：W-4-7】 https://www.opt.miyazaki-u.ac.jp/2021jabee/ フォルダ「学科 FD」内 【2020 年度卒業生アンケート結果：T-4-7】</p>

<p>4.2</p>	<p>【継続的改善】 プログラムは、教育点検の結果に基づいて教育活動を継続的に改善する仕組みを持ち、それに関する活動を行っていること。</p>	<p>総合的に本プログラムの改善に取り組むことを目的とした教育点検システムと、各教員が担当する講義科目の改善を目的とした教育点検システムが存在している。前者は学科内の「教育改善委員会」、「FD委員会」及び「学科会議」が担い、後者は「FD報告会」を通じた点検システムである。これらが、PDCAサイクルのそれぞれの役割を担いプログラム全体の改善に取り組んでいる。</p> <p>卒業生アンケートの結果だけでなく、「教育改善委員会」の主導で開催される「学生と教員の懇談会」での収集意見や「FD報告会」で把握した課題を参考にした上で、「教育改善委員会」が講義の実施方法の改善案の骨子を「学科会議」で示し、学科の構成員で議論して改善策を実行している。</p>	<p>【電気システム工学科教育改善ループ：W-4-1】 学科オリエンテーション（平成25年度用）(miyazaki-u.ac.jp) 【JABEE オリエンテーション資料中教育改善ループ：T-4-1】 (学科ホームページで公開)</p> <p>【教育目標達成度チェックシステム：W-4-2】 https://www.opt.miyazaki-u.ac.jp/2021jabee/ フォルダ「学科FD」内 【教育目標達成度チェックシステム：T-4-2】</p> <p>【学科FD委員会議事録：W-4-3】 https://www.opt.miyazaki-u.ac.jp/2021jabee/ フォルダ「学科委員会・WG」内 【学科FD委員会事録例：T-4-3】</p> <p>【学科FD報告会議事録：W-2-2】 https://www.opt.miyazaki-u.ac.jp/2021jabee/ フォルダ「学科FD」内 【学科FD報告会議事録例：T-2-2】</p> <p>【学科教育改善委員会議事録：W-4-4】 https://www.opt.miyazaki-u.ac.jp/2021jabee/ フォルダ「学科委員会・WG」内 【学科教育改善委員会議事録の例：W-4-4】</p> <p>【学科会議議事録：W-4-5】 https://www.opt.miyazaki-u.ac.jp/2021jabee/ フォルダ「学科運営」内 【学科会議議事録例：T-4-5】</p> <p>【授業アンケート：W-2-5】 https://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/student/questionnaire/ 【授業アンケートの例：T-2-5】 (各科目のFD報告書内で確認できる)</p> <p>【学生と教員の懇談会議事録：W-4-6】 https://www.opt.miyazaki-u.ac.jp/2021jabee/ フォルダ「学科主催行事・懇談会等」内 【学生と教員の懇談会議事録例：T-4-6】</p> <p>【卒業生アンケート結果：W-4-7】 https://www.opt.miyazaki-u.ac.jp/2021jabee/ フォルダ「学科FD」内 【2020年度卒業生アンケート結果：T-4-7】</p>
------------	---	--	--